

## 学校評価アンケート 2024 考察

---

今年度も児童・保護者へ家庭面についてのアンケートを実施した。昨年度の結果と今年度の結果を比較し家庭での児童の生活の様子と保護者が捉える児童の家庭での様子を考察することで、学校と家庭が協力して児童のよりよい成長へとつなげていけるよう活用していきたい。

### 1. 児童・保護者・教職員の結果を比較して…

- 昨年度に引き続き児童・保護者・教職員、三者とも学校の取組や状態について肯定的に捉える意見（「はい」「どちらかというとはい」という回答）を選択している割合が7割以上と多く、否定的に捉える意見（「どちらかというといいえ」「いいえ」という回答）は少ない。
- 保護者が「よくわからない」と答える割合が昨年度よりも増えている項目は12項目中6項目ある。

### 2. アンケートから

#### (ア)児童アンケートについて

- ① 2024年度もこれまで同様「はい」「どちらかというとはい」の順に割合が多く、両者で全体の7～9割程度とおおむね児童は、肯定的に評価している。
- ② 昨年度同様少数ではあるが、否定的な回答や「よくわからない」と回答している児童がいることについては、十分留意しなければならない。特に、「4.自分の学級ですごすのは楽しい。」「6.みのまわりのおかしなことや、なかまづくりのことについて、よくべんきょうしている。」「8.先生は話をよく聞いてくれる。」「10.あすなる集会やどうとくの時間に、自分の生活をふりかえることができる。」の項目で増えている。

#### (イ)保護者アンケートについて

- ① 「はい」「どちらかというとはい」の両者で全体の7割程度とおおむね保護者も学校の取組を肯定的に評価している。
- ② 「どちらかというといいえ」「いいえ」と回答した項目で、「7.生活面で、どの先生も同じように指導してくれる。」「9.学校からの連絡が密で、子どもの学校生活の様子がよくわかる。」については1割を越えている。
- ③ 「よくわからない」と回答した保護者の割合については改善傾向にあるものもあれば、昨年に引き続き1割から2割程度のものもある。
- ④ 自由記述欄には、学校に対して肯定的な意見もいただいているが、ICTについてや児童への指導について不安を感じる意見もあった。

#### (ウ)教職員アンケートについて

- ① 昨年度同様「はい」「どちらかというとはい」の両者で全体の9割以上と教職員も肯定的に捉えている。
- ② 教職員だけの回答となる『Ⅱ.学校経営に関する項目』では、安全指導や安全管理についても、昨年度同様、肯定的に捉えている。

(ア) (イ) (ウ) の結果から

児童・保護者・教職員とも「はい」「どちらかというとはい」の割合が多く、本校の取組は児童にも保護者にも肯定的に捉えられ、教職員の取組がおおむね理解されていると考えられる。

しかし、細かく見ていくと児童の評価結果では、昨年度に比べて改善されているものもあるが「6. みのまわりのおかしなことや、なかまづくりのことについて、よくべんきょうしている。」「7. 学校のやくそくごとなど、どの先生もおなじように話しをしてくれる。」の項目では昨年度同様「どちらかというといえ」「いいえ」「よくわからない」の回答が1割程度いる。改めて教職員間でしっかりと共通理解の上、児童への指導を見直していかなければならない。

また、昨年度同様保護者の「よくわからない」という回答が1割以上の項目は、以下のとおりである。

「2. 先生は、図や写真、実物などを使うなど、指導法を工夫してくれている。」

「5. 子どもは、とんぼの時間や生活科の時間を意欲的に学習している。」

「6. 各学年で人権教育に取り組んでいる。」

「7. 生活面でどの先生も同じように指導してくれている。」

「10. 子どもは、あすなろ集会や道徳の時間に人と人の関わり方について学習できている。」

「11. 子どもは、授業では学習のルールを守っている。」

となっている。このうち、5、7については昨年度よりも少し改善されているものの「よくわからない」という回答が1割以上は変わらない。

今年度は、学校行事においても家庭訪問や授業参観・学級懇談会なども実施し、児童の様子を参観してもらったり、教職員と直接話したりする機会も増えた。しかしながら、まだまだ学校での児童の様子や教育内容について、アンケート結果からも十分お伝えできていないところがあるのが現状である。学校便りや学級通信、ホームページを活用しながら学校の様子を伝えていかなければならない。今後も教職員間で十分に協議し対応していきたい。

家庭面でのアンケート結果からは、「15. 毎日、早寝早起きをしている。」の項目において、児童・保護者とも「どちらかといえはいえ」「いいえ」の回答が4割程度あった。昨年度よりも増えている。「18. 携帯電話やタブレット等でインターネットを利用している。」の項目においては、「毎日」と回答している児童が5割程度と約半数の児童が回答している。「17. 自分の携帯電話を持っている。」の項目においても約半数の児童が「はい」と回答し、昨年度よりも増えている。ネット社会におけるルールについては今後より一層しっかりと指導していく必要がある。また、家庭での過ごし方についても学校と家庭との連携を図りながらよりよい児童の成長につなげていきたい。ネット社会が進む現代において児童に必要なスキルと知識をどのように提供していくべきか教職員がしっかりと情報リテラシーを身に付け取組につなげていきたい。

自由記述においては、学校の取組にご理解をいただいたり感謝の言葉をいただいたりすることができた。一方、不安を感じるご意見については、児童のよりよい成長につなげるという観点から教職員で共通理解のもと学校行事や学習活動に生かしていけるよう取り組んでいきたい。